

2018年4月27日

2018年春、未来を想う

九州工業大学学長 尾家祐二

今年も、新入生を迎え、新たな1年が始まりました。学部および大学院前期・後期課程合わせて1660名の学生が入学しました。大変嬉しいことです。その中には、昨年度よりも多い16の国と地域から来日した59名の留学生も含まれています。遠い国々から来てくれた人達を歓迎する意味で、今年も、末尾に添付しているパネルを作成して、入学式会場に掲示しました。本学のキャンパス内に多くの留学生が行き交い、より多様性に富むキャンパスになることを期待しております。また、キャンパス外での学習の機会もますます広がっており、昨年度は、延べ人数で600名を超える学生が海外研修を経験しました。

さて、4月11日ブータン王国のツェリン・トブゲー首相をお迎えして行われました安倍内閣総理大臣夫妻主催の晩餐会に招待され、総理大臣公邸に参りました。ブータン王国は、約80万の人口を有する国で、現在5名の留学生が本学の大学院で学んでいます。その中の4名が、ブータン王国初となる超小型衛星の開発に取り組んでおり、その衛星は今年打ち上げ予定です。トブゲー首相は、晩餐会の御挨拶の中で、九州工業大学が衛星開発を支援している件について言及され、並々ならぬ関心を示されました。ブータン王国は、伝統的な社会・文化や民意、環境にも配慮した「国民の幸福」の実現を目指し、国民総生産（GNP）ではなく、国民総幸福量（GNH）を重要視している国です。そのような国の未来を切り拓く科学技術者の育成に貢献できることは大変光栄なことです。

私たちが思い描く未来は、想像をはるかに超えたものになることがしばしばです。司馬遼太郎氏は、1973年にモンゴルに行き、「モンゴル紀行」（司馬遼太郎著「街道をゆく5 モンゴル紀行」朝日文庫刊）を著しています。それは、大変な苦勞をして、新潟からハバロフスク、イルクーツクを経由して、ウランバートルに至る紀行です。新潟で「モンゴルへは、おそらく今後もじかにゆけることはあるまい。ソ連を通らなければならない」と記しています。そして、その当時の人口は130万程度であったと、書かれています。昨年10月にモンゴルの首都ウランバートルへ行き、モンゴル国立大学等を訪問しました。いまでは、成田から直行便があり、人口は300万程度になっています。現在、モンゴルからの5名の留学生が本学で学んでいます。そして、昨年モンゴルの留学生が本学で、モンゴル国初の衛星を開発し、宇宙放出に成功しました。

予測困難な未来ですが、それは私たちの可能性や価値を見出そうとする試み、新たな価値を生み出そうとする試みに関わる夥しい活動の延長上にあるのではないのでしょうか。本学は、大学のこれまでの枠に捕らわれない活動も実践し、教育研究活動の価値を高め、その価値を社会の中で共有する活動を行い、未来を創る人材の育成と新たな知の創造を続けます。今後も皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い致します。



ENTRANCE CEREMONY SPRING 2018



Kyutech
Kyushu Institute of Technology

